

名古屋駅における危険な出区点検 作業改善を勝ち取る！

3月1日より、出区点検の下回り（床下）点検の方法が改善されました。この発端と経緯は以下の通りです。

名古屋駅5番線に留置してある列車を出区点検する際、運転士は車両の下回り点検のため4番線側の通路（列車と列車との間の狭い隙間）を歩かなければなりません。点検作業中、4番線は貨物列車が連続して通過するため、いつ触車事故が発生してもおかしくない危険な状況でした。点検する運転士からも、貨物列車の運転士からも危険が警告されていたにもかかわらず、会社はマニュアル通りの作業を強制していたのです。

名古屋地本は、労働基準監督署や中部運輸局に、この危険作業の改善を訴え続けていましたが、進展はありませんでした。

田城郁参議院議員の協力のもと、JR総連は2月13日、厚生労働省と国土交通省に要請行動を行いました。このとき、名古屋駅の危険作業について、国土交通省に改善を求めました（本紙No.1992参照）。その結果、名古屋駅5番線の下回り点検はホーム側のみとなりました。私たちの闘いで勝ち取った成果です。

JR東海労は、田城郁議員・JR総連と共に、JR労働者の利益のためにさらに奮闘します。



国交省藤田鉄道局長に要請書を手渡す
田城郁議員（左）とJR総連武井委員長（右）

決め手は田城郁議員・JR総連の国交省要請！